

第3章 防災啓発・教育活動

1. 平成25年度 あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局 森田匡俊

1. 活動内容と年間スケジュール

平成25年度は、これまでの目的である「企業の災害に対する被害の軽減、復旧の迅速化」を継続し、月1回（原則毎月第4金曜）、愛知工業大学本山キャンパスにおいて開催した。防災セミナー、講演会・講習会・勉強会、防災サロン・ワークショップ、見学会を柱とした活動を積極的に行ない、災害に関する知識の修得、会員相互の交流、切磋琢磨をはかった。運営委員会および運営協議会を開催し、会の運営を審議しながら活動を行なった。表1に活動内容を示す。

表1 平成25年度あいぼう会活動内容

日期	例会	運営委員会	防災セミナー	防災サロン・WS	講演会 講習会	総会 運営協議会	見学会	懇親会 忘年会
4月26日	○				○	○		○
5月24日		○	○	○				
6月28日		○	○	○				
7月24日							○	
8月23日		○	○	○				
9月27日		○	○	○				
10月26日	台風接近のため中止							
11月22日		○	○	○				
12月11日							○	○
1月24日		○	○	○				
2月21日				○	○	○		
3月28日		○	○	○				
合計回数	1	7	7	8	2	2	2	2

2. 例会

平成25年4月26日（金） 13：00～17：00

➤第1部：講演会

第1部では、あいぼう会会長（愛知工業大学正木和明教授）の挨拶に続いて、愛知県防災局災害対策課の原田信一氏により『「防災・減災」に関わる愛知県の取り組みについて』とのタイトルで講演が行なわれた。

➤第2部：平成25年度総会

第2部では、平成24年度活動・会計報告、平成25年度活動方針・予算案、平成25年度防災サロン・ワークショップ説明が行なわれた。防災サロン・ワークショップ説明では、第1WS「巨大被害想定への対応」については小池則満班長が、第2WS「AIT防災情報ポータル」については落合鋭充班長が、第3WS「あいぼう会版 防災力検定」については内藤克己班長が説明した。最後に、内藤克己運営委員長より閉会の辞が述べられて、総会は終了した。

➤第3部：最新防災グッズ展示会

第3部では愛協産業(株)さまのご協力により、最新の防災グッズを集めた展示会を開催した。

3. 講演会・講習会

➤平成25年度講演会（通算第3回）：平成25年4月26日（金） 13：00～14：50

講 師：原田信一氏（愛知県防災局災害対策課）

テーマ：「防災・減災」に関わる愛知県の取り組みについて

➤平成25年度講習会（通算第6回）：平成26年2月21日（金） 13：00～14：30

講 師：畑中錦也氏（豊田市消防本部）

テーマ：ロープ結索訓練



写真1 平成25年度講演会ポスター



写真2 平成25年度講習会の様子

4. 見学会

➤平成25年度第1回（通算第14回）：平成25年7月24日（水） 14：00～16：00

新日鐵住金株式会社名古屋製鐵所がどのような防災体制・対応を行っているのを見学した。会員21名が参加した。

➤平成25年度第2回（通算第15回）：平成25年12月11日（水） 13：30～16：30

航空自衛隊小牧基地がどのような防災体制・対応を行っているのを見学した。会員25名が参加した。



写真3 新日鐵住金見学会



写真4 航空自衛隊小牧基地見学風景

5. 防災セミナー

防災に関わる各分野の専門家に依頼して、東日本大震災や南海トラフの巨大地震などに関連する防災トピックスについてのセミナーを開催した。

平成25年度第1回（通算第13回）：平成25年5月24日

講師：雉野聡子氏（愛知県防災局災害対策課）

テーマ：愛知県の帰宅困難者支援対策について

平成25年度第2回（通算第14回）：平成25年6月28日

講師：廣内大助氏（信州大学准教授）

テーマ：活断層地震災害を考える－東海地方の活断層

平成25年度第3回（通算第15回）：平成25年8月23日

講師：小林哲郎氏（愛知工業大学PD研究員）

テーマ：ビッグデータと防災への応用

平成25年度第4回（通算第16回）：平成25年9月27日

講師：村山寿一氏（宮城県名古屋産業立地センター長代理）

テーマ：東日本大震災後の宮城県の企業誘致

平成25年度第5回（通算第17回）：平成25年11月22日

講師：古澤正人氏（一般社団法人中部航空宇宙産業技術センターコーディネーター）

テーマ：ヘリコプターと災害

平成25年度第6回（通算第18回）：平成26年1月24日

講師：一柳勝宏氏（愛知工業大学教授）

テーマ：平常時のエコ電力供給と災害時に強いインフラ設備

平成25年度第7回（通算第19回）：平成26年3月28日

講師：森 匡孝氏（愛知県河川課主査）

テーマ：愛知県における『みずから守るプログラム』の取組

6. 防災サロン・ワークショップ

防災サロンは、「巨大被害想定への対応」というサブタイトルを設け、防災セミナーの講師の方を交えて意見交換会を実施した。第2WSは「AIT防災情報ポータル」をテーマに、防災に関するマップ情報の提供や緊急地震速報アプリの試験的配布などを実施した。第3WSは社員防災教育のための「防災力検定問題」システム構築とその検証作業を実施した。なお、第2・3WSは今年度で活動を終了した。

平成25年度第1回（通算第34回）：平成25年5月24日

平成25年度第2回（通算第35回）：平成25年6月28日

平成25年度第3回（通算第36回）：平成25年8月23日

平成25年度第4回（通算第37回）：平成25年9月27日

平成25年度第5回（通算第38回）：平成25年11月22日（中間報告会）

平成25年度第6回（通算第39回）：平成26年1月24日

平成25年度第7回（通算第40回）：平成26年2月21日（最終報告会）

平成25年度第8回（通算第41回）：平成26年3月28日

7. 運営委員会

これまで通り、月に1回のペースで運営委員会を開催した。

平成25年度第1回（通算第63回）：平成25年5月24日

平成25年度第2回（通算第64回）：平成25年6月28日

平成25年度第3回（通算第65回）：平成25年8月23日

平成25年度第4回（通算第66回）：平成25年9月27日

平成25年度第5回（通算第67回）：平成25年11月22日

平成25年度第6回（通算第68回）：平成26年1月24日

平成25年度第7回（通算第69回）：平成26年3月28日

8. 運営協議会

平成25年度運営協議会（通算第4回）：平成26年2月21日

運営協議会にて、平成25年度活動報告および平成26年度活動方針の発表を行なった。また、活動に関する外部評価を、下記の方々（ご所属のみ）に実施していただいた。

【専門委員ご所属】

東邦ガス株式会社

中部電力株式会社

名古屋商工会議所

【アドバイザーご所属】

愛知県防災局

幸田町消防本部

豊田市社会部

【その他】

愛知工業大学

豊田市消防本部

9. その他

平成25年9月1日に愛知県が主催した「あいちシェイクアウト訓練」に協力機関として参加した。あいほう会会員企業への訓練参加呼びかけ、会員企業内での広報などの活動を実施した。

2. 社会人防災マイスター養成講座

講座責任者 正木和明

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が危惧されている地域でもある。「社会人防災マイスター養成講座」は、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるように、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成することを目的としている。

愛知工業大学を中心として、連携校である名古屋工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の教員が参加して平成21年10月に開講した。

本講座は1年間の課程として、半期3科目（年間6科目）を受講することとしている。各科目は90分授業を15回行うため、年間で135時間の授業を開講することになる。学校教育法に基づき120時間以上の授業を受講した履修生に文科省より「履修証明書」が交付される。

対象者を社会人としているため、授業はeラーニングを中心として便宜を図るようにしている。

マイスターとして指導力を発揮するための問題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生はグループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

(1) 24年度秋季履修生

履修生には正規の6科目履修の他に、特別研究が課せられている。特別研究は大学における卒業研究に相当している。平成24年10月入学の秋季履修生は1年間の特別研究の成果を、平成25年7月に、先生方、履修生の前で発表した。過去の履修生も聴講に駆けつけてくれた。発表の後は修了生を囲んで懇親会が持たれた。修了生のネットワークの良さが示された。

表1 特別研究テーマ

特別研究テーマ
ある企業のBCP策定
太陽光発電パネルを用いた防災対策
防災を伝えることの重要性
防災に役立つ情報とは何か、弊社の製品・サービスで考える
消防団の現状と役割
防災・災害情報伝達システムの研究
大空間（大工場）の音声伝達改善についての研究
震災復旧における企業の位置づけと防災における企業ができる事



写真1 平成24年度秋季履修生特別研究中間発表 (H25.2.6)



写真2 24年度修了生 (H25.7.9)

(2) 25年度秋季履修生

平成25年10月10日に入学式を本山キャンパスで開催した。受講生は9名であり、内訳は、製造業（2名）、建設業（3名）、経営コンサル（1名）、社会福祉業（1人）、公務員（1名）、コミュニティ協議会役員（1名）である。平成25年度で半期が終了し、平成26年7月に修了予定である。

平成25年度入学者に対する講義科目と担当教員を表2示す。現在までの入学者数を表3に示す。

表2 科目と担当教員

開講期	授業科目	担当教員
秋季	防災学概論	正木
	建築防災論	岡田、内藤（総合資格）
	防災リテラシー	倉橋（㈱エーアイシステムサービス）、落合（㈱ファルコン）
春季	企業防災論	建部、渡辺（名工大）
	地域防災論	小池、鷺見（大同大）、早川（あいち防災リーダー会）
	防災フィールドワーク	今井（Gフレクション）
全期	特別研究	正木（コーディネーター）他全教員

表3 入学者数

講座年度	入学者数
21年度秋季	10人
22年度春季	10人
22年度秋季	9人
23年度秋季	10人
24年度秋季	9人
25年度秋季	9人



図1 平成25年度秋季募集用チラシ



写真3 25年度秋季入学式 (H25.10.10)

3. 緊急地震速報を活用した「第8回防災訓練」の実施

センター長 正木和明

1. 防災訓練の実施

愛知工業大学は全国の大学に先駆けて平成18（2006）年度から緊急地震速報を導入している。そのきっかけは、愛知工業大学地域防災研究センターが地域の事業所・企業に対し緊急地震速報を配信する研究を開始したことによる。企業に配信するに当たり、まず本学に導入し、活用の有効性の検証を試みようと考えたからである。

第8回防災訓練は、平成25（2013）年10月23日（水）11時30分～12時30分に実施された。訓練は、東海・東南海連動型地震（M=8.5、震央距離140km）を想定し、猶予時間40秒、予想震度6弱と設定して実施された。緊急地震速報受信と同時に緊急放送が自動的に起動し、サイレン（2回）の後「地震が来ます」の放送が繰り返される。学生は机の下に身を隠すなどの退避行動をとる。「揺れが収まりました」の放送で、避難広場への避難行動が開始される。

地域防災研究センターに11時40分危機対策本部が設置され、学長が対策本部長に就く。初期消火班、救出救護班は被害状況の把握と負傷者の救出にあたる。避難誘導班及び教職員の誘導により学生は避難広場（サッカー場）に集合する。専攻別・学年別に整列し、点呼による安否確認がなされる。避難広場統括者に避難学生数が報告され、統括者は対策本部に報告する。対策本部長は、学園本部長に報告する。避難者数が確認され、初期消火・負傷者救出が確認された時点で訓練は終了となる。

訓練は、大学の3つのキャンパス（豊田市八草キャンパス、名古屋市本山キャンパス、名古屋市自由が丘キャンパス）、附属専門学校（豊田市）、附属中学及び名電高校（名古屋市千種区）の学園全体で実施される。

参加者数は、大学が3,080人、専門学校が99人、高校が1,562人、中学が553人、合計5,294人であった。人数には学生、院生、教職員、厚生施設従業員をすべて含んでいる。このような大がかりな訓練は全国でも少ないと考えられる。

また、当日は避難訓練見学に14大学（22名）と2企業（3名）の見学者が在った。見学者には訓練実施前に訓練の概要、見学場所を説明し（写真1）、訓練中は任意の地点において見学いただいた。



写真1 見学者説明会

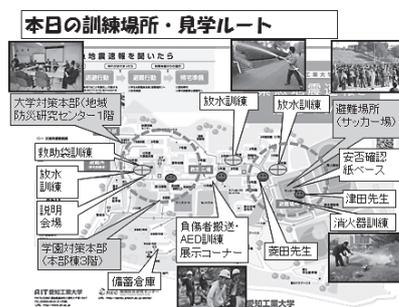


写真2 説明資料



写真3 避難広場への移動



写真4 避難広場で安否確認



写真5 AED講習



写真6 放水訓練

2. 大学の防災訓練・防災対策勉強会の開催

近隣の大学からの見学者が毎年多いことから、平成25年度は訓練実施後の13時～15時に「大学の防災訓練・防災対策勉強会」を開催した。

講演テーマ

○防災訓練事例紹介

「愛知工業大学における防災訓練」愛知工業大学地域防災研究センター長 正木和明

「巨大地震に備える大学の取り組み（名古屋大学の地震防災対策）」名古屋大学災害対策室室長 飛田 潤

○防災対策事例紹介

「RF-IDタグによる安否確認」愛知工業大学地域防災研究センター 中村栄治

「愛知工業大学における帰宅困難者対策」愛知工業大学地域防災研究センター 森田匡俊

「フェリカを利用した学生出席管理システムの構築」愛知工業大学電気学科 津田紀生

「非常時の安否確認システムの検討（避難追跡システムのための調査）」愛知工業大学情報科学科 菱田隆彰



愛知工業大学 地域防災研究センター 大学の防災訓練・防災対策勉強会

日時：平成25年10月23日（水）13:00～15:00
会場：愛知工業大学 八草キャンパス（愛知県豊田市長八草町八千第1247）
基礎教育センター（10号館）4階 2407教室（視聴覚教室）

次第：

- 13:00-13:05 開会の挨拶 正木和明（愛知工業大学地域防災研究センター長）
- 13:05-13:45 防災訓練事例紹介（総長：15分 質疑：5分）
「愛知工業大学における防災訓練」
正木和明（愛知工業大学地域防災研究センター長）
「名古屋大学の地震防災対策」
飛田 潤（名古屋大学災害対策室・室長）
- 13:45-14:30 防災対策事例紹介（総長：10分 質疑：5分）
「RF-IDタグによる安否確認」
中村栄治（愛知工業大学・教授）
「愛知工業大学における帰宅困難者対策」
森田匡俊（愛知工業大学地域防災研究センター・PD研究員）
「地域と協働した防災・減災の取り組み」
秀島宗三（名古屋工業大学 高度防災工学センタープロジェクト推進室長）
- 14:30-14:55 フリーディスカッション
- 14:55-15:00 閉会の挨拶 小池剛満（愛知工業大学・准教授）



写真7 防災訓練・勉強会のポスター

3. 本学備蓄倉庫見学会

勉強会終了後、本学の備蓄倉庫見学会を実施した。倉庫内には備蓄品として、カンパン4,200個、水（2リットル）1,070本、毛布1,000枚の他、懐中電灯、非常用トイレ、大釜セット、薪等々が保管されている。全教職員には非常用持ち出しキット（400個、4,200円相当）が配布されている。持ち出しキットは、四角い段ボール（25cm×25cm×8cm）に収納されており、本棚や机引き出しに保管しやすい形状となっている。中に15種類のアイテムが収納されている優れたものである。見学会参加者にも公開された。



写真8 備蓄倉庫見学会の様子



防災キット(個人分)		AIT 愛知工業大学	
No.	商品名	数量	使用方法
1	軍手(滑り止め付)	1	自衛、救助、防犯対策に
2	防護マスク	1	災害場内での自衛、救助の際の呼吸保護に
3	ホイッスル	1	救助、救援を求めるときに
4	LEDライト	1	LED車4乾電池使用
5	電池3本(アルカリ単4)	1	LEDライト用
6	サイリュウムライト(12時間タイプ)	1	折り曲げるだけで約12時間発光、暗闇の目印等に
7	三角巾	1	負傷部分の保護、ロープ・タオル代わりに
8	絆創膏	1	切り傷、テープ代わりに
9	携帯トイレ	3	携帯型トイレ、使用後は可燃ごみとして廃棄
10	付箋	1	防災、連絡、メモ等、情報伝達に
11	アルミブランケット(寝袋タイプ)	1	防寒な寝袋タイプ、防寒対策に
12	エアーク	1	負傷者の安定確保、休息に
13	保存水(500ml)	1	5年貯蔵(賞味期限:2018年5月)
14	乾パン(110g)	1	5年貯蔵(賞味期限:2018年5月)
15	避難袋	1	リュック型なので多用途に使えます

写真9 教職員全員に配布された段ボール箱に収納された「防災キット」と内容物

4. オープンカレッジ公開講座「愛知工業大学地域防災研究センター講座」の開催

正木和明

オープンカレッジ公開講座の一環として毎年、春季（3回）、秋季（3回）、「愛知工業大学地域防災研究センター講座」を開催している。

1. 対象者は一般市民である（定員は60名）
2. 会場は、春季は本学本山キャンパス（名古屋市千種区）、秋季は、本学と豊田市との包括的協定に基づき、豊田市の愛知工業大学情報電子専門学校において開催された。
3. 受講料は、地域貢献講座として位置付けられているので無料である。
4. 講座内容は以下のとおりである。

◎25年度春季講座「私の出会った魅力的な地震学」

この2年間で地震に関する考え方は大きく変わった。1,000年に一度の地震に我々はどう備えれば良いのか、そもそも備える事が出来るのか。再度考えてみる。

講師：正木和明 愛知工業大学地域防災研究センター長

場所：本山キャンパス

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 期日 ①5月18日（土）10：30～12：00 | 「2年間で明らかになった東北地方地震とは？」 |
| ②6月15日（土）10：30～12：00 | 「南海トラフの地震シナリオ、愛知県は？」 |
| ③7月27日（土）10：30～12：00 | 「まれに起きる巨大災害に備えられるのか？」 |

◎25年度秋季講座「私の出会った魅力的な地震学」

研究生活をしていると大きな影響を私に与えてくれた賢人がおられます。その様な中から3名を紹介します。

講師：正木和明 愛知工業大学地域防災研究センター長

場所：愛知工業大学情報電子専門学校

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 期日 ①10月12日（土）10：30～12：00 | 「地震学の祖、ミルンとトネ夫人」 |
| ②11月2日（土）10：30～12：00 | 「東南海地震を予知、今村明恒」 |
| ③12月7日（土）10：30～12：00 | 「私の恩師、飯田波事先生」 |

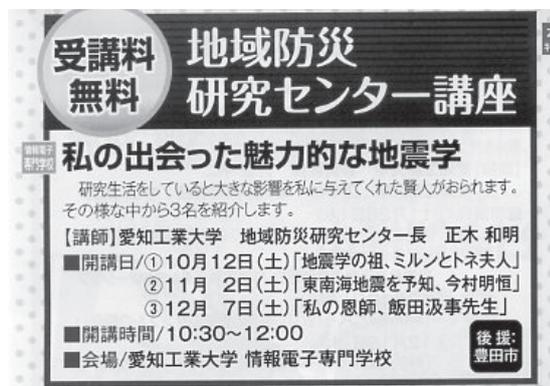


図1 25年度秋季講座募集案内



図2 講義に使用したパワポ資料の表紙

5. 瀬戸消防出初式への出展

正木和明・奥川雅之・鳥居一平

2015年1月12日（日）、瀬戸市のパーティセとにおいて恒例の「せと・まるっとミュージアム平成26年度瀬戸市消防出初式」における消防フェアが開催され、地域防災研究センターから、2つのグループが出展した。出展はこれまで恒例となっており、子供たちや市民への防災啓発運動として定着してきた。また、反応も年ごとに好評を博している。

鳥居教授と学生たちは今年度は本学の「学生チャレンジプロジェクト」で作成した3Dプロジェクション装置を出展した。この装置は、3Dプリンターで製作された愛知県の立体標高地形モデルに上方から液晶プロジェクタを用いて、東南海地震における震動の様子、被害の様子、火災の様子を投影し、子供たちに3次元映像としてわかりやすく説明できるものです。音声と共に立体地形モデル上を投影図が振動する（地震を表現する）様子に子供たちは真剣に体験していた。写真1に示す装置壁面のモニターは説明用であり写真では見えにくいですが、3D地形モデルは子供たちの腰あたりに水平に置かれている（写真では見にくい）。

奥川准教授と学生たちは昨年度と同様、ロボットによる災害救出活動をイメージしたレスキューローラー操縦体験を子供たちにしてもらった。2m×2mの枠内に、災害による瓦礫を再現し、リモコンでローラーを操作しながら救出活動を展開し、目的地に到達する操作を行ってもらった。昨年度も大人気であったが、今年も列をなす盛況であった。

今回も瀬戸消防署からの出展依頼がありこれに応じたものである。地域市民に本センターの活動をアピールする良い機会であると同時に、市民啓蒙活動としての成果も上がっている。



写真1 3Dプロジェクション装置



写真2 レスキューローラー操作

6. 第3回 AITテクノサロン開催

正木和明

平成25年（2013年）6月14日15時～17時、本山キャンパスにおいて「第3回AITテクノサロンが開催された。

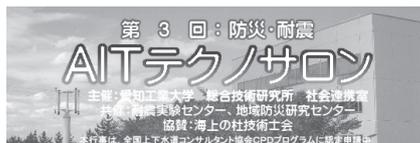
主催：愛知工業大学総合技術研究所

共催：耐震実験センター、地域防災研究センター

協賛：海上の杜技術士会

講演

- (1) 緊急地震速報を活用した高度地震対策
地域防災研究センター長 正木和明教授
- (2) 見えざる敵から水を守れ、長周期地震動に対する貯水槽の備え
耐震実験センター 鈴木森晶教授
- (3) 3次元計測を活用した防災対策
情報科学科（センター兼任） 中村栄治教授



テクノサロンは、愛知工業大学教員の研究にご関心のある企業の方々に、本学教員の研究成果・技術シーズについて話題提供し、地域企業の方々と教員との交流の場を提供するものです。

日時：2013年6月14日（金）午後3時から午後5時 参加費無料
場所：愛知工業大学 本山キャンパス大学院講義室1（3階）
スケジュール：
15:00～ 開会
「緊急地震速報を活用した高度地震対策」
地域防災研究センター長 正木和明教授
15:40～ 「見えざる敵から水を守れ、
長周期地震動に対する貯水槽の備え」
耐震実験センター 鈴木森晶教授
16:20～ 「3次元計測データを活用した防災対策」
情報科学科 中村栄治教授
17:00 閉会

テクノサロン終了後、本山駅近くの「輪羽亭（リハテイ）」にて、懇談会を開催いたします。（参加費：3500円）
食事をしながら、懇談を深めたいと思います。ご自由にご参加ください。
本山交差点から徒歩1分 東南角、アルファランド2F 052-781-8000

申込締切：6月3日（月）までに、氏名・所属・懇談会参加・不参加を下記のFAXまたはメールでお知らせください。
申込・問合せ先：愛知工業大学総合技術研究所社会連携室
電話：0565-48-8121（内線）3430 FAX：0565-48-4640
電子メール：so-ken@atech.aic.ac.jp ご案内URL⇒



写真1 案内のチラシ



写真2 会場の様子

7. センター見学会

平成25年度は、小学生1組39名、高校生3組165名、学校の先生2組76名、地域ボランティアなどでご活躍されている方々等5組117名となど、合わせて16組435名の方が地域防災研究センターを見学されました。

そのうち海外からお越しいただいたのは5組38名で、東南大学代表団6名、東南大学土木学院教授訪日団9名、東南大学学生訪日団13名、江蘇省教育庁訪日代表団6名、韓国海洋大学校4名です。

見学会では、当センターオリジナル「断層せんべい」を配布し、濃尾地震の写真と断層概念図で正断層、逆断層を説明した後、せんべいを割って断層の動きを体感しながら食べていただきます。こうして断層について学んだ後、センター玄関に設置してある「阿寺断層剥ぎ取り展示」を見学していただきます。

また、家庭・学校や地域における防災・減災を中心とした講義の後、「自走ぶるる」を使用して過去に起こった地震の揺れを実際に体験したり、当センター建物の免震構造を見学したりしていただいています。



写真1 自走ぶるるの体験(韓国海洋大学校)



写真2 緊急地震速報のデモンストレーション



写真3 センター建物の免震構造の見学



写真4 講義風景



写真5 東南大学の方々

8. あいちシェイクアウト訓練

森田匡俊

1. 概要

平成25(2013)年9月1日(日)に愛知県下で一斉に「あいちシェイクアウト訓練」が実施された。あいちシェイクアウト訓練は愛知県防災局が主唱し、愛知県が主催した防災訓練である。シェイクアウト訓練は、地震発生時にとっさに身を守る行動として、「①しせいをひくく、②あたまをまもり、③じっとする」訓練である。訓練には261,702名がウェブサイトなどを通じて登録を行い、訓練に参加した。

センターは、愛知県からの依頼により、愛知工業大学、あいぼう会、(株)エーアイシステムサービス、(株)ファルコン、シェイクアウト提国会議、プライマリ・メタ・ワークス(株)らと共に「あいちシェイクアウト訓練実行委員会」のメンバーとして、訓練の実施に協力した。具体的な協力内容は、ウェブサイト作成運営、ポスターおよびリーフレット、防災カードの作成などである。

2. ウェブサイト

あいちシェイクアウト訓練の参加者の登録受付を行うため、当訓練専用ウェブサイトを立て上げた。サイトでは登録受付フォームだけでなく、訓練リーフレットのDLページ、参加者メッセージ掲載ページ、参加団体一覧掲載ページ、参加者の地理的な分布状況を掲載したページなどを用意することで、参加者増加に向けたコンテンツ充実を図った。また、訓練終了後には、実施した団体(小学校1、民間企業2、自治体2)を取材し、来年度以降の実施希望団体に向けた実施事例紹介ページを作成するなどした。詳細については、あいちシェイクアウト訓練ウェブサイト([www.http://aichi0901.jp/](http://www.aichi0901.jp/))を参照されたい。

3. ポスター・リーフレット・防災カード

訓練告知のためのポスターおよびリーフレット、防災カード(図1~6)を作成し、各所に配布した。このポスター・リーフレットのデザインは本学学生2名がボランティアとして協力した。

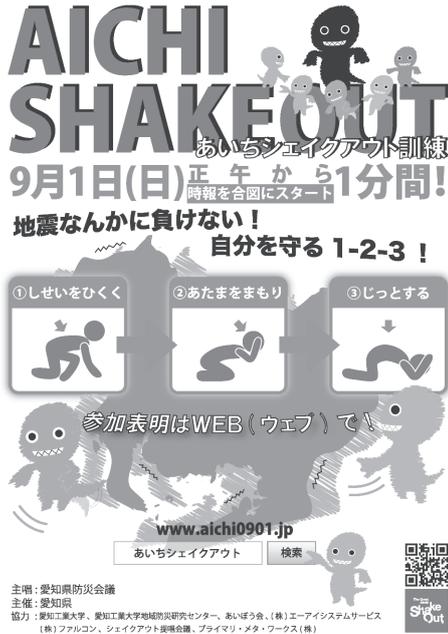


図1 ポスター・リーフレット(表面)



図2 ポスター・リーフレット(裏面)



図3 児童用リーフレット(表面)

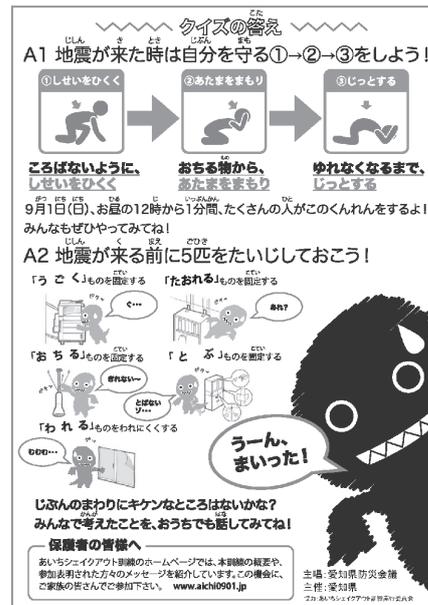


図4 児童用リーフレット(裏面)



図5 児童用防災カード(表面)



図6 児童用防災カード(裏面)

9. とよた防災フェスタ

森田匡俊・奥川雅之・鳥居一平・正木和明

1. 概要

平成26(2014)年3月8日(土)にスカイホール豊田において「とよた防災フェスタ2014」が開催された。とよた防災フェスタ実行委員会への委員派遣を豊田市より依頼され、森田(ポスドク研究員)が委員として参加した。実行委員会としてフェスタ開催に協力したほか、実行委員会大学部会の一員として災害体験アトラクションコースなどのイベントを企画実施した。大学部会は、豊田市との包括的協定に参加する豊田市内の中京大学、愛知学泉大学、日本赤十字豊田看護大学、豊田高等専門学校及び本学の学生(3年生3名)がメンバーとなったほか、豊田青年会議所、豊田市、本学の職員が学生を取りまとめる形でメンバーとなり組織・運営された。この他にも、①センターとNPO法人Dochubu、(株)ファルコとの共同研究、②奥川研の災害対応ロボット・レスキューベスト、③鳥居研の災害プロジェクションマッピング、④(株)エーアイシステムサービスのブースを出展した。

2. 大学部会学生イベント

大学部会は学生が主体となり、「災害体験アトラクションコース(写真1)」や「防災メッセージツリー」、「防災グッズ(ヘルメット)デザインコンテスト」といったイベントをサブホールにて企画実施した。

3. センター・Dochubu・ファルコン共同出展

共同出展ブースでは、近年の共同研究成果などについてのポスター展示やPCによる緊急地震速報の配信デモを実施した。ポスターは「センターの概要(図1)」、「緊急地震速報研究(図2)」、「帰宅困難者対策研究(図3)」、「津波避難研究(図4)」、「防災マップ作り研究(図5)」を展示した。この他にも、愛知工業大学周辺地域の防災情報を収集している「AIT防災情報ポータル」の紹介や、防災関連クイズにトライした方に断層せんべいをプレゼントする「せんべいクイズ」などを行った。

4. 災害対応ロボット・レスキューベスト出展(奥川雅之研究室)

奥川雅之機械学科准教授の研究室が、災害対応ロボット「Scott」とロボット操作の際に着用するレスキューベストの展示および実演を行った(写真2、3)。レスキューベストは、奥川准教授が大阪府立大付属高専の土井准教授らと共同研究で開発したものである。今回、豊田市と本学との連携協定の一環として、豊田市消防のレスキュー隊員に、レスキューベストに関する評価を依頼した。レスキュー隊員から「試作としては良くできており、コンセプトも理解できる。現場で使用する時は、誰が、どのように使うかを明確にすることが必要。議論を重ね、今後も開発を続けていくことを期待します」との評価を受けた。また、幼児向けのレスキューロボットの小型模型体験も実施した。

5. 災害プロジェクトンマッピング出展（鳥居一平研究室）

鳥居研究室からは、南海トラフの巨大地震による被害想定を愛知県のジオラマ模型に投影する「災害プロジェクトンマッピング」のシステムを出展した。

6. エーアイシステムサービス出展

製品の「緊急地震速報システム」と「災害対策意思決定支援サービス」の紹介を実施した。ブース内にて、来場者の方の自宅や事業所などの地震等被害想定を簡易診断したり、緊急地震速報を発報したりするデモを行った。



写真1 災害体験アトラクションコース



写真2 災害対応ロボット



写真3 レスキューベスト



図1



図2

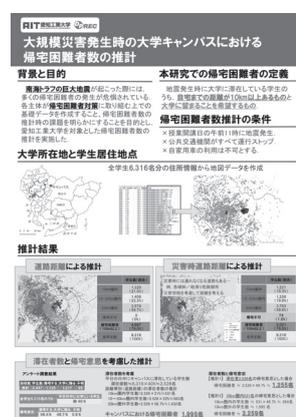


図3



図4



図5

10. 土木学会中部支部「出前講座」実施報告

小池則満

土木学会中部支部では「土木技術者・研究者による出前講座・出前授業」を実施しており、2013年度は、地域防災研究センターに依頼のあった一件について対応した。

開催日時： 平成26年1月23日（木） 19：30～21：00

会 場： 美濃加茂市生涯学習センター

講 師： 小池 則満

参加人数： 8名

対 象： 一般（生涯学習講座受講者）

題 目： 緊急地震速報で命をまもる

【当日の内容】

東日本大震災の発生メカニズムについて、紹介するとともに、緊急地震速報の仕組みについて説明した。活用事例として愛知工業大学における避難訓練、今後の発展性として津波可能性システムを示した。

緊急地震速報デモンストレーションとして、今回新たに、エアシステムサービス株式会社によって改良されたデモソフトを用いて、美濃加茂市における地震リスク（断層）などを解説した。具体的には、中央防災会議による活断層についてとりあげ、美濃加茂市における予想される震度および主要動到達までの時間を表示した。これにより、従来のシステムよりも以下の点について明瞭に示すことが出来た。

①海溝型地震における余裕時間との差異

活断層が引き起こす直下型地震と比較して、南海トラフを震源とする地震では緊急地震速報によってもたらされる余裕時間が相対的に長くなることを視覚的に示すことが出来た。

②活断層の破壊開始位置による差異

一つの名称で呼ばれる断層も数キロから数十キロの長さがあり、破壊開始位置によって緊急地震速報で得られる余裕時間は異なってくる。その様子を示して、近すぎる場所においては余裕時間を確保出来ないことを詳細に示した。

受講者は少なかったが、座談会のような雰囲気で行進できたことから、質問も多くいただいた。今後とも、緊急地震速報の有効活用に結びつけるためのデモンストレーションの方法について、工夫を重ねていきたいと考える。

各種実績一覧

■講演会等リスト

正木和明

- ・愛知工業大学オープンカレッジ地域防災研究センター講座、「2年間で明らかになった東北地方地震とは?」、2013年5月18日、「南海トラフの地震シナリオ、愛知県は?」、2013年6月15日、「まれに起きる巨大災害に備えられるのか?」、2013年7月27日
- ・AITテクノサロン、「緊急地震速報を活用した高度地震対策」、愛知工業大学総合技術研究所、2013年6月14日
- ・愛知工業大学地区別懇談会（金沢）オープンフォーラム「本学は全国の大学で初めて緊急地震速報を導入しました」、2013年9月14日
- ・瀬戸市合自治区防災講演会、「我が家の地震対策」、瀬戸市水南小学校、2013年9月29日
- ・平成25年度南知多町地域防災リーダー養成講座、「地震・津波の仕組み～町の災害リスク～」、南知多役場、2013年10月5日
- ・平成25年度かすがい熟年大学講義、「地震学～地球誕生から自然破壊へ」、文化フォーラム春日井、2013年10月9日
- ・愛知工業大学オープンカレッジ地域防災研究センター講座、「地震学の祖、ミルンとトネ夫人」、2013年10月12日、「東南海地震を予知、今村明恒」、2013年11月2日、「私の恩師、飯田汲事先生」、2013年12月7日
- ・半田市地震防災講座、「巨大地震と半田～正しく学び、正しく恐れ、正しく立ち向かう～」、半田市福祉文化会館雁宿ホール、2013年11月7日
- ・平成25年度防災講演会、「瀬戸市の地震被害シナリオと対策、地域でどう取り組むか?」、瀬戸蔵つばきホール、2013年12月8日
- ・地域助け合い講座、「東日本大震災に学ぶ、もし東海沖で巨大地震が起きたら岩塚学区は……」、岩塚コミュニティセンター、2013年12月21日
- ・豊田商工会議所耐震セミナー、「南海トラフ地震と豊田地域の企業防災対策」豊田商工会議所多目的ホール、2014年2月26日
- ・あいち防災リーダー会東尾張ブロック定期総会講演会、「地域における防災リーダーの役割」、瀬戸市やすらぎ会館、2014年3月15日

入倉孝次郎

- ・(社)日本建築学会近畿支部 耐震構造研究会シンポジウム 想定を超える地震・地震動に対する建築物の応答と今後の耐震設計、基調講演「南海トラフの巨大地震に対する強震動予測レシビと地震動特性」、大阪建設交流館、2013年7月2日
- ・サイエンスアゴラ、「地球に生きる素養って何?—対話で考える、私と地球の付き合い方—」、「私と地震との付き合い方」、産業技術総合研究所臨海副都心センター、2013年11月9日
- ・原子力が有する社会的リスクと科学的リスク概念を導入した原子力発電の安全性向上を目指して—フォーラム基調講演、「地震動と断層問題」、科学技術館、2013年11月15日
- ・愛知工業大学地域防災研究センター10周年記念シンポジウム、「南海トラフの巨大地震に備えた地域防災力向上の取り組み～これまでの10年、これからの10年～」、「南海トラフ巨大地震でどのようなことが起こるのか—東日本大震災から学んだこと—」、ホテル名古屋ガーデンパレス、2013年11月26日

- ・ Annual Donors and Participating Institutions' Meeting, Evaluation of structural Influence Induced by Slope Collapse Application to fault Displacement Analytical Consideration, "General Description of Seismic Strong Ground Motion which Causes Slope Collapse or Fault Displacement Forwarding to Ground Surface", the International Seismis Safety Center (ISSC), in Vienna, Austria, January 28-30, 2014
- ・ Second Japanese-Bulgarian Scientific Conference, Keynote speech, "Seismic Hazard and Earthquake Disaster Prevention Studies in Japan – Lessons Learnt from 1955, Mw6.9, Kobe Earthquake and the 2011, Mw9.0, Tohoku Earthquake", Bulgarian Academy of Sciences, Sofia, Bulgaria, 2014年3月26日、27日
- ・ Seismic hazard and related earthquake phenomena, Second Japanese-Bulgarian scientific conference, "Strong Motion Prediction Studies Based on Surveys of Active Faults in Japan", Bulgarian academy of sciences, Sofia, Bulgaria 26-27 March, 2014

建部謙治

- ・ 名古屋工業大学社会工学特別講座 I、「建築計画基礎と学校施設」、「建築計画学」、名古屋工業大学、2013年8月7日
- ・ AIT オープンフォーラム講演、「近未来の生活・環境」、クラウンパレス浜松、2013年10月5日

岡田久志

- ・ 鉄骨工事管理責任者講習会、基調講演「建築鉄骨の構造品質向上に向けて」、名古屋国際会議場、2013年10月8日

中村栄治

- ・ 第10回電子ペーパーシンポジウム、「電子ペーパーを用いた授業管理・運営システム」、2014年2月28日

小池則満

- ・ 第7回公益財団法人河川財団名古屋研究発表会、「巨大災害に備える広域避難計画策定のための空間的分析」、ウインクあいち、2013年11月20日
- ・ 愛知工業大学地域防災センター 10周年記念シンポジウム南海トラフの巨大地震に備えた地域防災力向上の取り組み～これまでの10年、これからの10年～、「社会人防災マイスター養成講座」、名古屋ガーデンパレスホテル、2013年11月26日
- ・ まなびいかも丸美濃加茂校、「緊急地震速報で命をまもる」、美濃加茂市生涯学習センター、2014年1月23日
- ・ DoChubu “つながるマップ” 研究会、「常磐東小学校における通学路防災マップづくりについて」、愛知工業大学地域防災研究センター、2014年2月10日

奥川雅之

- ・ 平成25年度先端科学技術入門、「レスキューロボット：人が行けない場所を調査するロボット」、愛知工業大学名電高等学校、2013年6月19日
- ・ 電通大杯ヒト型レスキューロボットコンテスト2013、「レスキューロボット：人が行けない場所を調査するロボット」、大阪電気通信大学駅前キャンパス、2013年11月3日

山本義幸

- ・海上の杜技術士会第5回技術研修会、「測量データの可視化」、愛知工業大学本山キャンパス、2013年11月8日

森田匡俊

- ・大学の防災訓練・防災対策勉強会、「愛知工業大学における帰宅困難者対策」、愛知工業大学八草キャンパス、2013年10月23日
- ・愛知工業大学地域防災研究センター10周年記念シンポジウム 南海トラフの巨大地震に備えた地域防災力向上の取り組み～これまでの10年、これからの10年～、「災害時の出勤・帰宅対策研究」、名古屋ガーデンパレスホテル、2013年11月26日

廣内大助

- ・日本地すべり学会中部支部講演会、「活断層と変動地形学—変動地形から何がわかるのか」、サンパルテ山王、2013年5月15日
- ・ケアフレンズ長野チャリティ講演会、「長野の活断層を知ろう—活断層地震にどう備えるか」、藤屋御本陣、2013年6月18日
- ・企業防災ネットワークあいぼう会例会、「活断層地震災害を考える—東海地方の活断層」、愛知工業大学本山校舎、2013年6月28日
- ・美し国おこし・三重さきもり塾「地域防災総論Ⅰ」、三重大学、2013年6月29日
- ・社会資本整備セミナー（北陸地域づくり協会）、「活断層と地震防災を考える～新潟・長野・富山・石川の活断層」、新潟県建設会館、2013年8月2日
- ・社会資本整備セミナー（北陸地域づくり協会）、「活断層と地震防災を考える～新潟・長野・富山・石川の活断層」、石川県勤労者福祉文化会館、2013年8月6日
- ・社会資本整備セミナー（北陸地域づくり協会）、「活断層と地震防災を考える～新潟・長野・富山・石川の活断層」、富山産業展示館テクノホール、2013年8月7日
- ・社会資本整備セミナー（北陸地域づくり協会）、「活断層と地震防災を考える～新潟・長野・富山・石川の活断層」、長野バスターミナル会館、2013年8月9日
- ・防災講演会、「地震災害を知り、備える～箕輪町周辺の地震とその被害予測」、蓑輪町地域交流センター、2013年9月28日
- ・篠ノ井地区住民自治協議会、「歴史から見る海溝型巨大地震とその被害予測（信州大学出前講座）」、篠ノ井市民会館、2013年10月30日
- ・こども未来財団子育て支援者向け研修事業後援会、「名古屋の地震と水害、その履歴と被害予測～その時なにが起こるのか（そのとき、子育て支援は）」、名古屋市子ども・子育て支援センター、2013年12月9日
- ・後期防災講座、「名古屋の地震災害とその被害予測、もしもの大地震に備えて～災害の歴史から学び、未来にいかす～」、東区生涯学習センター、2014年1月25日

倉橋奨

- ・愛知工業大学地域防災研究センター10周年記念シンポジウム南海トラフの巨大地震に備えた地域防災力向上の取り組み～これまでの10年、これからの10年～、「緊急地震速報の高度化」、名古屋ガーデンパレスホテル、2013年11月26日

■ TV出演他

正木和明

- ・ひまわりネットワークテレビ、2013年6月7日収録
- ・スタジオ・豊田市総合避難訓練（藤岡地区）2元放送、ひまわりネットワークテレビ、2013年8月31日（16:30～19:00中継）
- ・「津波想定 海水浴客の避難を検証」、news watch 9. 2014年8月19日（21:00～22:00）他

小池則満

- ・「津波情報時の行動は 課題さぐる」、NHK NEWS HOT EVENING、2014年8月14日（18:10～19:00）
- ・「津波想定 海水浴客の避難を検証」、news Watch 9、2014年8月19日（21:00～22:00）

■ 各種委員

正木和明

- ・愛知県東海・東南海・南海等地震被害予測調査ワーキンググループ委員
- ・愛知県有識者懇談会委員
- ・豊田市防災基本条例検討委員会副委員長
- ・大府市防災助言者
- ・瀬戸市防災会議委員
- ・公益財団法人岐阜県産業経済振興センター南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業基金事業亜炭鉱跡問題対策委員会委員長
- ・中部近畿地方鉱山保安協議会委員
- ・安城市総合評価競争入札学識経験者
- ・南知多町防災専門委員
- ・一般社団法人充填技術協会副理事長

入倉孝次郎

- ・日本学術会議連携会員
- ・文部科学省地震調査推進本部専門委員
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
- ・内閣府南海トラフ巨大地震モデル検討会委員
- ・IAEA（国際原子力機関）EBP-WA1議長
- ・IAEA（国際原子力機関）IASA ISSC 科学委員会委員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所強震観測事業推進連絡会議委員
- ・独立行政法人原子力安全基盤機構試験研究等外部評価委員
- ・独立行政法人原子力安全基盤機構安全研究評価委員会委員
- ・滋賀県地震被害想定調査検討委員会委員
- ・社団法人日本地震学会 IASPEI 委員会委員
- ・社団法人日本地震学会災害調査委員会委員

- ・財団法人地震予知総合研究振興会サイスマテクトニクス研究会委員

建部謙治

- ・豊田市都市景観審議会委員・会長
- ・日本インテリア学会東海支部長
- ・愛知県防犯住宅コンテスト審査委員会委員

岡田久志

- ・日本建築学会 鉄骨工事運営委員会委員
- ・日本建築センター・電算プログラム審査委員会委員
- ・全国鉄骨評価機構 中部地区評価委員
- ・日本鉄骨評価センター 評価委員
- ・日本鋼構造協会 鉄骨製作管理者審査委員会委員
- ・溶融亜鉛めっき高力ボルト技術協会 施工技術者等資格認定委員会委員

曾我部博之

- ・日本建築学会 情報システム技術本委員会
- ・日本建築学会 構造設計における冗長性と性能最適化小委員会
- ・日本建築学会 ソフトコンピューティング小委員会
- ・日本建築センター 電算プログラム審査委員会
- ・愛知県建築住宅センター 耐震診断判定部会及び耐震改修評定部会

中村栄治

- ・精密工学会 大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会 委員

小池則満

- ・東海ネーデルラント高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター
- ・名古屋市防災会議 地震対策専門委員会 災害に強いまちづくり分科会 委員
- ・名古屋市防災まちづくり計画検討会 委員
- ・南知多町津波避難計画策定委員会 委員
- ・日本都市計画学会 社会連携交流組織「避難訓練学の提唱および社会的実装に関する研究委員会」代表

奥川雅之

- ・日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門技術委員会第3地区技術委員
- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門レスキュー工学会幹事
- ・レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長
- ・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会 (A-TS10-40)」主査
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会 (A-TS10-39)」委員

- ・日本機械学会「評価・診断に関するシンポジウム」実行委員長
- ・計測自動制御学会「システムインテグレーション部門講演会」プログラム委員
- ・「ロボティクスシンポジア」プログラム委員
- ・岐阜高専・各務原市連携事業ツアーガイドロボット開発推進委員会「ツアーガイドロボット開発プロジェクト」委員
- ・TPIPユーザーコミュニティ主査

山本義幸

- ・日本リモートセンシング学会学術委員会委員
- ・精密工学会大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会委員

森田匡俊

- ・人文地理学会広報委員
- ・とよた防災フェスタ実行委員
- ・あいちシェイクアウト訓練実行委員

廣内大助

- ・国土交通省国土地理院 活断層情報整備検討委員会委員
- ・国土交通省国土地理院治水地形判定委員会委員
- ・原子力規制委員会大飯発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者委員
- ・第3次長野県地震被害想定策定検討委員会委員
- ・長野県実践的防災教育推進事業 学校防災アドバイザー
- ・日本地理学会災害対応委員会地域拠点委員
- ・地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員
- ・長野県地理学会幹事
- ・日本活断層学会行事委員会委員
- ・日本第四紀学会古地震ネオテクトニクス研究委員会委員
- ・独立行政法人 産業技術総合研究所活断層・地震研究センター客員研究員
- ・愛知工業大学地域防災研究センター 客員教授
- ・NPO 法人レスキューストックヤード有識者パートナー
- ・新修豊田市史編さん委員会自然部会執筆協力員

阿部亮吾

- ・地震に強いものづくり地域の会運営委員
- ・港区多文化共生推進協議会オブザーバー
- ・新修豊田市史編さん委員会現代部会調査協力員

■外部資金 獲得状況

正木和明

- ・ 正木和明、入倉孝次郎、「地域防災のための高精度強震動予測手法の開発」、50万円、科学研究費補助金基盤研究C、2011年4月～2014年3月
- ・ 森保広、正木和明、「建物ごとに高精度に表示される地震ハザードマップの構築とその活用に関する研究」、670万円（分担者金60万円）、科学研究費補助金基盤研究B、2013年4月～2016年3月

建部謙治

- ・ 建部謙治、「医療福祉施設における震災時の初動体制に関する基礎的研究」、215万円、科学研究費補助金、研究期間、2013年4月～2016年3月

奥村哲夫

- ・ 奥村哲夫、成田国朝、木村勝行、「豪雨・洪水時の河川堤防の安全性確保に関する研究」、39万円、科学研究費、2011年4月～2013年3月

小池則満

- ・ 小池則満、廣内大助、倉橋奨、「クリアランスタイムのある災害における要援護者搬送計画策定手法の開発」、100万円、科学研究費補助金基盤研究（C）、2012年4月～2015年3月

小橋勉

- ・ 小橋勉、趙偉（中部大学経営情報学部准教授）、小室達章（金城学院大学国際情報学部准教授）「合併経験の知識移転メカニズムの分析」143万円、学術振興会科学研究費基盤研究（C）、2013年4月～2017年3月

奥川雅之

- ・ 土井智晴、奥川雅之、山内仁、高森年、大坪義一、衣笠哲也、「ICT技術を用いた消防隊員遠隔支援用レスキューベストの開発」、71.5万円（直接 55万円、間接 16.5万円）、文科省科学技術研究費補助金「基盤研究（B）」、2011年4月～2014年3月

鳥居一平

- ・ 鳥居一平、「まばたき検出によるコミュニケーション支援アプリの開発」、50万、人工知能学会、2012年～2014年
- ・ 鳥居一平、「肢体不自由児のためのまばたき検出による支援の研究」、240万、博報財団、2013年～2014年
- ・ 鳥居一平、「瞬きによる携帯情報端末用コミュニケーション支援ツールの開発」、100万、栢森情報科学振興財団、2013年～2014年
- ・ 鳥居一平、「肢体不自由児のための瞬き検出によるコミュニケーション支援ツールの研究と開発」、260万、科研費基盤C、2013年～2015年
- ・ 鳥居一平、「IEEE International Conference on Tools with Artificial Intelligence」、30万、大幸財団、海外学術交流研究助成、第28回海外学術交流研究助成、2013年

森田匡俊

- ・大西宏治、廣内大助、西村雄一郎、森田匡俊、「湛水時間を考慮した洪水ハザードマップとそれを活用した災害図上訓練の開発」、26万円、日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤研究（C）、2012年4月～2015年3月
- ・森田匡俊、「マイクロジオデータを用いた災害時帰宅困難者対策ガイドラインに関する研究」、195万円、日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金若手研究（B）、2013年4月～2016年3月

廣内大助

- ・今泉俊文、廣内大助、「変動地形マッピングに基づく伏在活断層・活褶曲と地震発生様式の解明」課題番号（21240074）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（A）、2009年4月～2014年3月
- ・大西宏治、廣内大助、「湛水時間を考慮した洪水ハザードマップとそれを活用した災害図上訓練の開発」課題番号（24501287）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）、2012年4月～2014年3月
- ・小池則満、廣内大助、倉橋奨、「クリアランスタイムのある災害における要援護者搬送計画策定手法の開発」課題番号（24590641）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）、2012年4月～2014年3月
- ・廣内大助、「横ずれ共役活断層における連動型地震の再評価」課題番号（25350426）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）、2013年4月～2015年3月
- ・田中敏、廣内大助、「教科間連携に基づいた共創型防災教育モデルの開発」課題番号（25285244）文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）、2013年4月～2015年3月
- ・森保宏、廣内大助、「建物ごとに高精度に表示される地震ハザードマップの構築とその活用に関する研究」課題番号（25282100）、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）、2013年4月～2015年3月
- ・廣内大助、「隆起海岸地形から推定する南海トラフ巨大地震像の解明と地震モデルの構築」愛知工業大学地域防災研究センター研究助成、2013年4月～2014年3月
- ・石山達也、文部科学省立川断層帯における重点的な調査観測（断層帯の詳細位置・形状および断層活動履歴・平均変位速度の解明のための調査観測）、2012年4月～2014年3月

阿部亮吾

- ・阿部亮吾、「日本型多文化共生社会の構築と展望に関する実証的・理論的研究」、40万円、文部科学省科学研究費、若手（B）、2010年4月～2014年3月

倉橋奨

- ・小池則満、廣内大助、倉橋奨、「クリアランスタイムのある災害における要援護者搬送計画策定手法の開発」課題番号（24590641）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）、2012年4月～2014年3月
- ・倉橋奨、「南海トラフ地震にも利用可能な緊急地震速報の構築」338万円、科学研究費若手研究、2013年4月～2015年3月

■特許**中村栄治**

- ・中村栄治、菱田隆彰、坂本将暢、田口 司、相馬大作、「通信表示デバイスによる授業運営管理システム」、特

開、2013-182506、2013年9月

奥川雅之

・特願2013-237961、形状可変クローラ型移動体、2013年11月

業績リスト

■論文（審査付）

正木和明

- ・ 正木和明：東日本大震災における子供たちの津波避難行動、子供と発育発達、第11巻、第1号、(2013.4)

入倉孝次郎

- ・ Susumu Kurahashi and Kojiro Irikura: Short-Period Source Model of the 2011 Mw9.0 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, Bulletin of Seismological Society of America, Vol. 103, No. 2B, pp. 1373-1393, (2013.5)
- ・ 田島礼子、松元康広、司宏俊、入倉孝次郎：内陸地殻内および沈み込みプレート境界で発生する巨大地震の震源パラメータに関するスケーリング則の比較研究、地震、第2輯、第66巻、pp. 31-45、(2013.12)

建部謙治

- ・ 建部謙治、田村和夫、高橋郁夫：BCP概念図に基づく経営診断指標の提案と適用・分析事例、日本建築学会計画系論文集、No. 693、pp. 2339-2345、(2013.11)
- ・ 建部謙治、宮治眞、天野寛、井出政芳：地震動の人体に及ぼす生理的影響、地震動による高齢者への心理・生理学的影響に関する実験的研究 その1、日本建築学会計画系論文集、No. 697、pp. 651-657、(2014.3)

岡田久志

- ・ 佐藤篤司、鳥山拓哉、岡田久志、小野徹郎、千田光、藤内繁明：薄板軽量形鋼造建築用ホールダウン金物の接合部耐力、日本建築学会構造系論文報告集、第689号、2013.7)

小池則満

- ・ 小池則満：試乗前後における一般市民のヘリコプターに対する意識変化、日本航空医療学会雑誌（調査報告）、Vol. 14、NO. 1、pp. 21-25、(2013.8)

奥川雅之

- ・ S. Suzuki, S. Hasegawa and M. Okugawa: Warning System for Crawler-Type Mobile Robot with Passive Sub-Crawler, Proceedings of the 11th IEEE International Workshop on Safety, Security and Rescue Robotics, Paper No. 39, (2013.10)
- ・ T. Doi, T. Kinugasa, M. Okugawa, H. Yamauchi, T. Takamori, and Y. Ohtsubo: Development of Rescue Vest using ICT, Proceedings of the 11th IEEE International Workshop on Safety, Security and Rescue Robotics, Paper No. 2, (2013.10)

山本義幸

- ・ 朝香智仁、岩下圭之、査読無、工藤勝輝、青山定敬、山本義幸：津波避難ビル候補の選定における航空レーザ測量成果の利用方法、日本リモートセンシング学会誌、33巻1号、pp. 1-12、(2013.4)

廣内大助

- ・石黒聡士、杉戸信彦、後藤秀昭、鈴木康弘、廣内大助、堤浩之、Dangaa Enkhtaivan Ochirbat Batkhishig : CORONA 画像の実体視判読に基づく1957年Gobi-Altay地震の地表地震断層の認定、活断層研究、40、pp. 19-34、(2014.3)
- ・道家涼介、安江健一、廣内大助、國分(斎藤)陽子、松原章浩：岐阜県中津川市加子母地区長洞における阿寺断層帯中部の活動時期、活断層研究、40、pp. 43-50、(2014.3)

倉橋奨

- ・Susumu Kurahashi, Kojiro Irikura: Short-Period Source Model of the 2011 Mw9.0 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, Bulletin of Seismological Society of America, Vol. 103, No. 2B, pp. 1373-1393, (2013.5)

安江健一

- ・古澤 明、安江健一、中村千怜、梅田浩司：根ノ上高原に分布する土岐砂礫層のテフラ層序—石英中のガラス包有物の主成分化学組成を用いた広域テフラの対比—、応用地質、第54巻、pp. 25-38、(2013.4)
- ・梅田浩司、谷川晋一、安江健一：地殻変動の一樣連続性と将来予測：地層処分の安全評価の視点から、地学雑誌、第122号、pp. 385-397、(2013.7)
- ・新里忠史、安江健一、道家涼介、中安昭夫：地質環境調査におけるノウハウ及び意思決定プロセスの表出化—隆起速度の算出に関する調査・解析の事例—、情報地質、第25号、pp. 3-20、(2014.2)

■論文(研究報告集・紀要集)

正木和明

- ・正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)
- ・倉橋奨、正木和明、入倉孝次郎：破壊の広がりを考慮した緊急地震速報の高度化、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.20-21、(2013.7)
- ・森田匡俊、正木和明、奥貫圭一、落合鋭充、小林広幸、倉橋奨：愛知工業大学八草キャンパスにおける大規模災害発生時の帰宅困難者数の推計、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.57-64、(2013.7)
- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura : Verification of identifying velocity structures from H/V spectral ratio of microtremor、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.53-56、(2013.7)

入倉孝次郎

- ・倉橋奨、正木和明、入倉孝次郎：破壊の広がりを考慮した緊急地震速報の高度化、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.20-21、(2013.7)
- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura : Verification of identifying velocity structures from H/V spectral ratio of microtremor、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.53-56、(2013.7)

建部謙治

- ・建部謙治、田村和夫、高橋郁夫、内藤克己、小橋勉：東日本大震災における企業の地震被害調査、愛知工業大

- 学地域防災研究センター年次報告書、vol. 9、pp. 29-32、(2013.7)
- ・ 建部謙治、田村和夫、高橋郁夫、内藤克己：企業における緊急地震速報の利活用調査、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol. 9、pp. 33-36、(2013.7)
- ・ 小橋勉、建部謙治、田村和夫、高橋郁夫：自治体BCP研究に向けての現状と課題、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol. 9、pp. 37-39、(2013.7)
- ・ 建部謙治、青木徹彦、宮治眞、天野寛、井出政芳：高齢者への地震動による心理学的・生理学的影響、愛知工業大学耐震実験センター年次報告書、vol. 5、pp. 125-128、(2013.9)
- ・ 建部謙治、田村和夫、高橋郁夫、木田健一、内藤克己、小橋勉：中小企業を対象とした防災診断、愛知工業大学耐震実験センター年次報告書、vol. 5、pp. 129-132、(2013.9)

中村栄治

- ・ 正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)

小池則満

- ・ 正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)

小橋勉

- ・ 小橋勉：防災力向上に向けての絶えざる改善：アイシンAW（株）、IEレビュー、Vol. 54, No. 5, pp. 67-72、(2013.12)
- ・ 小橋勉、建部謙治、田村和夫、高橋郁夫：自治体BCP研究に向けての現状と課題、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.37-39、(2013.7)
- ・ 建部謙治、田村和夫、高橋郁夫、内藤克己、小橋勉：東日本大震災における企業の地震被害調査、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.29-32、(2013.7)

奥川雅之

- ・ 奥川雅之、土井智晴：レスキューロボットコンテストと遠隔操縦システム、計測と制御、Vol. 52, No. 6, pp. 503-508、(2013.6)
- ・ 奥川雅之、山本義幸：ロボットを利用した倒壊家屋周辺環境計測、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、Vol. 9、pp. 22-28、(2013.7)
- ・ 正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)

山本義幸

- ・ 山本義幸、森田匡俊：リモートセンシングデータの防災に関わる検出レベルの検証、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.12-15、(2013.7)
- ・ 正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)
- ・ 奥川雅之、山本義幸：ロボットを利用した倒壊家屋周辺環境計測、愛知工業大学地域防災研究センター年次報

告書、vol.9、pp.22-28、(2013.7)

森田匡俊

- ・ 奥貫圭一・溝口常俊・森田匡俊・服部亜由未・平松晃一：明治初期の村ポリゴンデータの作成とその分析の試み、名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター報告2013、pp.148-153、(2014.3)
- ・ 服部亜由未・奥貫圭一・溝口常俊・平松晃一・森田匡俊：幕末から明治大合併までの行政界変遷データベースマップの作成、名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター報告2013、pp.154-174、(2014.3)
- ・ 森田匡俊、鈴木 克哉、奥貫圭一：日本の主要都市における直線距離と道路距離との関係に関する実証的研究、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.40-52、(2013.7)
- ・ 森田匡俊、正木和明、奥貫圭一、落合鋭充、小林広幸、倉橋奨：愛知工業大学八草キャンパスにおける大規模災害発生時の帰宅困難者数の推計、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.57-64、(2013.7)
- ・ 森田匡俊：南海トラフの巨大地震を想定した取引先企業の危険性評価—愛知県に所在するA社を事例に一、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.65-70、(2013.7)
- ・ 山本義幸、森田匡俊：リモートセンシングデータの防災に関わる検出レベルの検証、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.12-15、(2013.7)
- ・ 正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)

廣内大助

- ・ 廣内大助：変動地形学と活断層地形判読—変動地形から何がわかるのか、土と岩、61、pp.14-21、(2013.4)

倉橋奨

- ・ 倉橋奨、正木和明、入倉孝次郎：破壊の広がりを考慮した緊急地震速報の高度化、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.20-21、(2013.7)
- ・ 正木和明、小池則満、森田匡俊、中村栄治、奥川雅之、山本義幸、倉橋奨、落合鋭充：自然災害に対する意思決定支援システムの構築、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.16-19、(2013.7)
- ・ 森田匡俊、正木和明、奥貫圭一、落合鋭充、小林広幸、倉橋奨：愛知工業大学八草キャンパスにおける大規模災害発生時の帰宅困難者数の推計、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.57-64、(2013.7)

小林広幸

- ・ 森田匡俊、正木和明、奥貫圭一、落合鋭充、小林広幸、倉橋奨：愛知工業大学八草キャンパスにおける大規模災害発生時の帰宅困難者数の推計、愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.57-64、(2013.7)

呉浩

- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura：Verification of identifying velocity structures from H/V spectral ratio of microtremor, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書、vol.9、pp.53-56、(2013.7)

■その他（報告書など）

中村栄治

- ・中村栄治：個人等情報制御システム、特願、2013-117009、(2013.6)

小池則満

- ・小池則満、西村雄一郎、河川財団名古屋事務所：巨大災害に備える広域避難計画のための空間的分析、河川財団名古屋事務所調査・研究事業報告書、(2014.3)

小橋勉

- ・小橋勉：研修機関による企業内研修、中部経済新聞、2013年4月22日号、p.5、(2013.4)
- ・小橋勉：防災対策に見られる「改善」意識、中部経済新聞、2013年12月16日号、p.7、(2013.12)

森田匡俊

- ・森田匡俊：GPSを用いた海水浴場における津波避難の分析、GIS NEXT、46、p.74、(2014.1)

廣内大助

- ・廣内大助：南海トラフの巨大地震とその被害予測（講演記録）、新修名古屋市史だより、31、pp.1-8、(2013.3)
- ・石山達也、東郷正美、佐藤比呂志、廣内大助、中山敏雄、長谷川均、磯谷達宏、小野勇：断層帯の詳細位置・形状等および断層活動履歴・平均変位速度の解明、立川断層帯における重点的な調査観測平成24年度成果報告書、pp.22-34、(2013.5)
- ・吉岡敏和、廣内大助、斉藤勝：高山・大原断層帯南東部、猪之鼻断層帯の古地震調査、活断層・古地震研究報告、13、pp.111-128、(2013.11)
- ・廣内大助、池田安隆、金田平太郎、鈴木康弘、宮内崇裕、小荒井衛（筆頭と末尾以外アイウエオ順）：1:25000都市圏活断層図「巨理」、国土地理院技術資料D1-No.640、(2013.11)
- ・金田平太郎、後藤秀昭、中田高、廣内大助、松多信尚、小荒井衛（筆頭と末尾以外アイウエオ順）：1:25000都市圏活断層図「相馬」、国土地理院技術資料D1-No.640、(2013.11)

■学会発表・プロシーディングス

正木和明

- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura: Relationship between damage ratios and ground motion characteristics during 2011 Tohoku Earthquake, 日本地球惑星科学連合大会、SSS33-23、千葉幕張メッセ国際会議場、(2013.5)
- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi: Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 Tohoku Earthquake, 日本地震学会2013年度秋季大会、B31-03、神奈川県民ホール、(2013.10)
- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi: Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, 日本地震工学会年次大会-2013、No.114、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター、(2013.11)
- ・王欣、入倉孝次郎、正木和明、源栄正人、久田嘉章、久保智弘、荒川洋輔：地震動・常時微動・3Dモデルに

基づく東日本大震災前後超高層ビルの応答特性の変化、日本地震工学会年次大会、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター、(2013.11)

入倉孝次郎

- ・ Kojiro Irikura: Recipe of Predicting Strong Motions from Mega-Thrust Earthquakes, The 2013 SSA Annual Meeting, Salt Lake City, USA, (2013.4)
- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura: Relationship between damage ratios and ground motion characteristics during 2011 Tohoku Earthquake, 日本地球惑星科学連合大会, SSS33-23, 千葉幕張メッセ国際会議場、(2013.5)
- ・ 倉橋奨、入倉孝次郎：緊急地震速報における上下動加速度記録を利用した主要動波形の即時予測手法の提案、日本地球惑星科学連合2013年大会、千葉県幕張メッセ、(2013.5)
- ・ 入倉孝次郎：地球科学研究の原子力研究の耐震安全性へのかかわり、地球惑星科学連合大会、幕張メッセ、千葉、(2013.5)
- ・ Kojiro Irikura: Lessons learned from the 2011 Tohoku earthquake for reducing earthquake disasters, The joint symposium of seismic hazard assessment, Special lecture, Sendai, Japan, (2013.6)
- ・ 倉橋奨、宮腰研、入倉孝次郎：2011年東北地方太平洋沖地震における強震動生成域からの長周期地震動(2-20s)の生成、物理探査学会第128回(平成25年春季)学術講演会、早稲田大学、(2013.6)
- ・ Kojiro Irikura: Earthquake scenarios for predicting strong ground motions from subduction mega-thrust earthquakes, Joint Assembly IAHS-IAPSO-IASPEI, Gothenbrug, Sweden, (2013.7)
- ・ Kojiro Irikura: Some features of strong ground motions and structural damage during the 2011 Mw 9.0 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, 10th International Workshop on Seismic Microzoning and risk Reduction, 政策研究大学院大学、(2013.9)
- ・ 入倉孝次郎：沈み込み型巨大地震からの長周期強震動(2-20秒)の評価の考え方、日本地震学会2013年度秋季大会、横浜、(2013.10)
- ・ 倉橋奨、入倉孝次郎：2008年岩手宮城内陸地震の強震動生成域から生成される長周期地震動、日本地震学会2013年度秋季大会、神奈川県民ホール・産業貿易センター、(2013.10)
- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi：Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 Tohoku Earthquake, 日本地震学会2013年度秋季大会、B31-03、神奈川県民ホール、(2013.10)
- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi：Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, 日本地震工学会年次大会-2013、No. 114、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター、(2013.11)
- ・ 王欣、入倉孝次郎、正木和明、源栄正人、久田嘉章、久保智弘、荒川洋輔：地震動・常時微動・3Dモデルに基づく東日本大震災前後超高層ビルの応答特性の変化、日本地震工学会年次大会、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター、(2013.11)

建部謙治

- ・ 高橋郁夫、建部謙治、田村和夫：東北地方太平洋沖地震における中小企業の被害の実態調査、日本建築学会大会学術講演梗概集B-2、pp. 297-298、(2013.8)
- ・ 建部謙治、田村和夫、高橋郁夫、内藤克己：岩手県企業における緊急地震速報の活用状況、日本建築学会大会学術講演梗概集B-2、pp. 1155-1156、(2013.8)

- ・ 建部謙治：若年者による料亭写真の印象評価、日本インテリア学会大会研究発表梗概集No. 25、pp. 87-88、(2013.10)
- ・ 鄂芳尊、建部謙治：中国内モンゴルフルンポイル市における子どもの心象風景、日本建築学会東海支部研究報告集52、pp. 685-688、(2014.2)

奥村哲夫

- ・ 奥村哲夫、木村勝行、成田国朝、中村吉男：河川堤防の揚圧力対策に関する三次元遠心模型実験、土木学会第68回年次学術講演会概要集、pp. 385-386、(2013.9)

岡田久志

- ・ 岡田久志、近藤信彦、橋本篤秀：非めっき構造物とめっき構造物境界部における溶接垂鉛めっき高力ボルト摩擦接合すべり耐力に関する実験、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、材料用施工、(2013.8)
- ・ 小野徹郎、岡田久志、佐藤篤司、藤内繁明、西沢穂浪：腰壁を有するスチールハウス耐力壁の力学的特性 その1腰壁が耐力と変形能力に与える影響、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）構造Ⅲ、(2013.8)
- ・ 西沢穂浪、小野徹郎、岡田久志、佐藤篤司、藤内繁明：腰壁を有するスチールハウス耐力壁の力学的特性 その2腰壁がアンカーボルト軸方向力に与える影響、日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)構造Ⅲ、(2013.8)
- ・ 鳥山拓哉、佐藤篤司、岡田久志、小野徹郎、藤内繁明：ドリルねじ接合による薄板鋼板一面せん断重ね継手のドリルねじ破断耐力、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）構造Ⅲ、(2013.8)
- ・ 三井和也、佐藤篤司、岡田久志、小野徹郎：薄板軽量形鋼組立材の曲げ座屈耐力に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）構造Ⅲ、(2013.8)
- ・ 野牧貴行、岡田久志、小野徹郎、佐藤篤司、他：ドリルねじによる構造用合板と薄板軽量形鋼重ね継手の繰り返し挙動について、日本建築学会東海支部研究報告集Vol. 52、(2014.2)
- ・ 三井和也、佐藤篤司、岡田久志、小野徹郎：薄板軽量形鋼組立圧縮材の曲げ座屈耐力に関する研究 その3帯板形式薄板軽量形鋼組立圧縮材細長比算定式の導出、日本建築学会東海支部研究報告集Vol. 52、(2014.2)
- ・ 鳥山拓哉、佐藤篤司、小野徹郎、岡田久志、藤内繁明：腰壁を有する薄板軽量形鋼耐力壁の履歴特性、日本建築学会東海支部研究報告集Vol. 52、(2014.2)

曾我部博之

- ・ 曾我部博之：最適構造設計における PSO法の探索性能に関する検討—骨組構造物における層せん断力係数の最適化—、計算工学講演会論文集Vol. 18、(2013.6)
- ・ 曾我部博之：構造最適化問題における粒子群最適化法の探索性能について—地震応答評価に基づく降伏層せん断力係数の最適化—、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、(2013.8)
- ・ 曾我部博之：構造最適化問題における粒子群最適化法の探索性能について—ホモロガス構造への応用—、第36回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、(2013.12)

小池則満

- ・ 小池則満、倉橋奨、廣内大助：緊急地震速報による津波注意喚起システムの開発、2013年地域安全学会梗概集、pp. 91-94、(2013.5)
- ・ KOBAYASHI, T., MORITA, M. and KOIKE, N. : Spatio-temporal Accessibility Measure to Evaluate Tsunami Evacuation Plans - a Case Study in Minami-Chita, Aichi-, IGU2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International

Conference Center, (2013.8)

- ・中嶋浩人、小池則満：AHPを用いた緊急地震速報活用のための重要項目に関する意識調査、第65回土木学会年次学術講演会講演概要集、I-155、(2013.9)
- ・森田匡俊、小林哲郎、小池則満：集団での津波避難行動に関する分析、日本地理学会発表要旨集No. 85、p. 76、(2014.3)

奥川雅之

- ・長谷川慧、鈴木壮一郎、奥川雅之：転倒回避を考慮した受動サブクローラを有する災害対応ロボットの操縦支援システム、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2013講演論文集、1P1-P08、(2013.5)
- ・鈴木壮一郎、長谷川慧、奥川雅之：受動性を有する形状可変クローラの張力調整機構の提案、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2013講演論文集、1P1-P09、(2013.5)
- ・奥川雅之、細見和輝、丹羽主樹、長谷川慧、鈴木壮一郎：受動サブクローラを有するクローラ型ロボットの角度拘束条件の検討、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2013講演論文集、1P1-P13、(2013.5)
- ・土井智晴、奥川雅之、山内 仁、宗澤良臣、大坪義一、小林 滋、衣笠哲也：ICT技術を活用したレスキューベストの開発 第3報:電波強度と連続稼働時間の評価および消防関係者からの意見、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2013講演論文集、1P1-P20、(2013.5)
- ・北川翔也、奥川雅之、小林義光：ダルマ型移動ロボットへの適応オブザーバの適用、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2013講演論文集、2P1-O05、(2013.5)
- ・内村隆寛、奥川雅之：平行二輪倒立振子型パーソナルモビリティの制御系設計におけるノミナルモデルに関する考察、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2013講演論文集、2P1-O06、(2013.5)
- ・伊藤準、奥川雅之：適応オブザーバによるスマートワッシャの固有振動数同定問題、日本機械学会機械力学計測制御部門講演会 Dynamics and Design Conference 講演論文集 (CD-ROM)、Paper-No. 540、(2013.8)
- ・鈴木壮一郎、奥川雅之、浅井友将、長谷川慧：受動サブクローラを有するクローラ型移動ロボットの角度拘束問題、第31回日本ロボット学会学術講演会講演論文集、Paper No. 1J1-04、(2013.9)
- ・伊藤準、奥川雅之：スマートワッシャの適応オブザーバによる固有振動数同定問題、日本機械学会第12回評価・診断に関するシンポジウム講演論文集、pp. 130-135、(2013.12)
- ・勝 玄毅、寺田 恭祐、奥川 雅之：ロボットの個体識別機能を用いたトリアージタグの作成、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2013)、pp. 272-277、(2013.12)
- ・北川 翔也、奥川 雅之、小林 義光：ダルマ型二輪移動ロボットの本体姿勢角推定問題、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2013)、pp. 1276-1280、(2013.12)
- ・内村隆寛、奥川 雅之：平行二輪倒立振子型パーソナルモビリティにおける搭乗過程を考慮したノミナルモデルの選定、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2013)、pp. 1270-1275、(2013.12)
- ・鈴木壮一郎、長谷川慧、浅井友将、奥川雅之：受動性を有する形状可変クローラ型移動ロボットの段差踏破性の評価、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2013)、pp. 185-190、(2013.12)
- ・浅井友将、松原秀彦、鈴木壮一郎、長谷川慧、奥川雅之：競技形式による受動サブクローラを有するクローラ型移動ロボットの評価と改善、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2013)、pp. 297-302、(2013.12)
- ・長谷川慧、鈴木壮一郎、奥川雅之：受動サブクローラを有するクローラ型移動ロボットを想定したワーニングシステムの評価、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2013)、pp. 1901-1906、(2013.12)

- ・岩熊 孝幸、金澤 拓也、野村 泰朗、白上 敬一、奥川 雅之：レスキューロボットコンテストシーズのための機材開発、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2013）、pp.307-312、（2013.12）
- ・森 崇大、尾坂 甚伍、小林 裕輔、近村 慎、入江 哲也：大阪府立大高専 福祉科学研究会、広工大レスコンチーム、レスコンシーズ実行委員会、寺西 大、土井 智晴、奥川 雅之、レスキューロボットコンテスト・シーズジャンボリー 2013 in KOBE の実施報告、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2013）、pp.303-306、（2013.12）
- ・土井 智晴、奥川 雅之、山内 仁、宗澤 良臣、横小路 泰義：レスキューロボットコンテスト実行委員会、第13回レスキューロボットコンテストの総括、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2013）、pp.319-321、（2013.12）
- ・土井智晴、奥川雅之、山内 仁、宗澤良臣、大坪義一、小林 滋、衣笠哲也、山中 恵介、蓬臺 優堯：ICT技術を活用したレスキューベストの開発、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2013）、pp.1243-1244、（2013.12）
- ・H. Ito and M. Okugawa: Natural Frequency Identification of Smart Washer by using Adaptive Observer, Proceedings of the SPIE 21th Annual International Symposium on Smart Structures and Materials + Nondestructive Evaluation and Health Monitoring: Sensors and Smart Structures Technologies for Civil, Mechanical, and Aerospace Systems 2014, Vol. 9061-141, (2014.3)

鳥居一平

- ・Ippei Torii, Kaoruko Ohtani, Takahito Niwa, Naohiro Ishii: Development of Support Applications for Elderly and Handicapped People with ICT Infrastructure, 15th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2013), pp. 266-270, (2013.7)
- ・Ippei Torii, Kaoruko Ohtani, Takahito Niwa, Naohiro Ishii: Development and Study of Support Applications for Autistic Children, ACIS International Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Parallel/Distributed Computing (IEEE ACIS SNPD 2013), pp. 420-425, (2013.7)
- ・Ippei Torii, Kaoruko Ohtani, Takahito Niwa, Naohiro Ishii: Study and Development of Schedule Application for Autistic Children IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics (IIAI AII ICSCAI 2013), pp. 251-255, (2013.9)
- ・Ippei Torii, Kaoruko Ohtani, Takahito Niwa, Naohiro Ishii: Study and Development of Support Tool with Blinks for Physically Handicapped Children, IEEE 25th International Conference on Tools with Artificial Intelligence (ICTAI 2013), pp. 116-122, (2013.11)
- ・Ippei Torii, Takahito Niwa, Shota Murayama, Naohiro Ishii: Workflow and New Production Techniques in Projection Mapping, IIAI International Conference on Advanced Information Technologies 2013 (IIAI AIT2013), (2013.12)

山本義幸

- ・Tomohito Asaka, Yoshiyuki Yamamoto, Keishi Iwashita, Katsuteru Kudou : Automated method for tracking shorelines in L-band SAR images, 2013Asia-Pacific Conference on Synthetic Aperture Radar (APSAR), (2013.9)
- ・青山定敬、牧田愛、工藤勝輝、山本義幸：ALOS/PALSAR による北上川河口周辺域における津波浸水、土木学会平成25年度全国大会講演論文集IV部門、（2013.9）
- ・山本義幸、清水康博、中村栄治、奥川雅之：点群データを使用した道路の舗装面評価、第12回評価・診断に関するシンポジウム、pp.86-89、（2013.12）

- ・ Yoshiyuki Yamamoto, Yasuhiro Shimizu, Eiji Nakamura, Masayuki Okugawa, Tomohito Asaka, Keishi Iwashita: POINT CLOUD ANALYSIS FOR ROAD PAVEMENTS IN BAD CONDITIONS, ASPRS 2014 Annual Conference Proceedings, <http://www.asprs.org/a/publications/proceedings/Louisville2014/Yamamoto.pdf>, (2014.3)

森田匡俊

- ・ OKUNUKI, K., MIZOGUCHI, T., HIRAMATSU, K., HATTORI, A. and MORITA, M. : An application of network spatial analysis to regional systems of early Meiji Japan in a historical GIS environment, IGU 2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, (2013.8)
- ・ KOBAYASHI, T., MORITA, M. and KOIKE, N. : Spatio-temporal accessibility measure to evaluate tsunami evacuation plans - a case study in Minami-Chita, Aichi, IGU 2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, (2013.8)
- ・ MORITA, M., SHIODE, N., SHIODE, S. and OKUNUKI, K. : Local Spatial Correlation Analysis of the Ageing Population in Japan, IGU 2013 Kyoto Regional Conference, (2013.8)
- ・ 奥貫圭一、溝口常俊、森田匡俊、服部亜由未、平松晃一：明治初期の村ポリゴンデータの作成とその分析、地理情報システム学会講演論文集 22、CD-ROM (B-1-5)、(2013.10)
- ・ 西村雄一郎、森田匡俊、大西宏治、廣内大助：NHK アーカイブス災害映像を活用した2000年東海豪雨の報道マッピング、日本災害情報学会第15回大会、群馬大学工学部、(2013.10)
- ・ 森田匡俊、小林哲郎、奥貫圭一：大規模災害発生時における徒歩帰宅グルーピング手法の提案、地理情報システム学会講演論文集 22、CD-ROM (C-4-5)、(2013.10)
- ・ 森田匡俊：大規模災害時における大学キャンパスからの帰宅意志に関する研究、2013年人文地理学会大会研究発表要旨、pp. 80-81、(2013.11)
- ・ Okunuki, K., Mizoguchi, T., Morita, M., Hattori, A. and Hiramatsu, K : Historical GIS of early Meiji Japan, PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings, (2013.12)
- ・ 森田匡俊、小林哲郎、小池則満：集団での津波避難行動に関する分析、日本地理学会発表要旨集 No. 85、p. 76、(2014.3)
- ・ 西村雄一郎、森田匡俊、大西宏治、廣内大助：NHK アーカイブス災害映像に基づく2000年東海豪雨の報道マッピングの試み、日本地理学会発表要旨集 No. 85、p. 321、(2014.3)

小林哲郎

- ・ KOBAYASHI, T., MORITA, M. and KOIKE, N. : Spatio-temporal accessibility measure to evaluate tsunami evacuation plans - a case study in Minami-Chita, Aichi, IGU 2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, (2013.8)
- ・ 森田匡俊、小林哲郎、奥貫圭一：大規模災害発生時における徒歩帰宅グルーピング手法の提案、地理情報システム学会講演論文集 22、CD-ROM (C-4-5)、(2013.10)
- ・ 森田匡俊、小林哲郎、小池則満：集団での津波避難行動に関する分析、日本地理学会発表要旨集 No. 85、p. 76、(2014.3)

廣内大助

- ・ 小池則満、倉橋奨、廣内大助：緊急地震速報による津波注意喚起システムの開発、地域安全学会第32回研究発表会、男鹿温泉交流会館、(2013.5)

- ・ N. Sugito, N. Matsuta, H. Goto, Y. Kumahara, K. Hori, D. Hirouchi, S. Ishiguro, T. Nakata, M. Umitsu, M. Watanabe, Y. Suzuki : Criteria for detection of tsunami-inundation area and its field examination for the 2011 Tohoku tsunami, based on air-photo stereo-pair interpretation, IGU2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, (2013.8)
- ・ Matsuta, N., N. Sugito, H. Goto, S. Ishiguro, T. Nakata, M. Watanabe, H. Une, K. Tamura, Y. Kumahara, K. Hori, D. Hirouchi, M. Umitsu, T. Usui, and Y. Suzuki : Significance and background of mapping the area hit by the tsunami of 11th March 2011, northeast Japan, IGU 2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, (2013.8)
- ・ 杉戸信彦、鈴木毅彦、石山達也、廣内大助、今泉俊文:長野盆地西縁断層帯、飯山市街地付近の平均変位速度、日本地震学会、神奈川県民センター、(2013.10)
- ・ 石山達也、佐藤比呂志、東郷正美、鈴木毅彦、廣内大助、川崎慎治、阿部進、郡谷順英、小俣雅志:立川断層の巨大トレンチ調査と3次元反射法地震探査、日本地震学会、神奈川県民センター、(2013.10)
- ・ 西村雄一郎、森田匡俊、大西宏治、廣内大助:NHK アーカイブス災害映像を活用した2000年東海豪雨の報道マッピング、日本災害情報学会第15回大会、群馬大学工学部、(2013.10)
- ・ 杉戸信彦、松多信尚、廣内大助、石山達也:1847年善光寺地震に伴う飯山城下町の地形変化、日本活断層学会、つくば国際会議場、(2013.11)
- ・ 西村雄一郎、森田匡俊、大西宏治、廣内大助:NHK アーカイブス災害映像に基づく2000年東海豪雨の報道マッピングの試み、日本地理学会発表要旨集No. 85、p. 321、(2014.3)

阿部亮吾

- ・ Abe, R. : Ethnic segregation and organization of Filipinos in the Greater Sydney, IGU2013 Kyoto Regional Conference, Kyoto International Conference Center, (2013.8)
- ・ 阿部亮吾:オーストラリア型多文化主義の退行期におけるフィリピン系移民の移住・集住・組織化、日本都市学会第60回大会、サンポート高松、(2013.10)
- ・ 阿部亮吾:フィリピン系移民の集住と組織化—シドニー大都市圏ほかを事例に—、第1回東・東南アジア移民研究会、立命館大学、(2014.1)
- ・ 阿部亮吾:多文化時代におけるフィリピン系移民の組織化—シドニーと名古屋大都市圏を事例に—、経済地理学会中部支部2月例会、名城大学、(2014.2)

倉橋奨

- ・ 倉橋奨、入倉孝次郎:緊急地震速報における上下動加速度記録を利用した主要動波形の即時予測手法の提案、日本地球惑星科学連合2013年大会、千葉県幕張メッセ、(2013.5)
- ・ 倉橋奨、宮腰研、入倉孝次郎:2011年東北地方太平洋沖地震における強震動生成域からの長周期地震動(2-20s)の生成、物理探査学会第128回(平成25年春季)学術講演会、早稲田大学、(2013.6)
- ・ 倉橋奨、入倉孝次郎:2008年岩手宮城内陸地震の強震動生成域から生成される長周期地震動、日本地震学会2013年度秋季大会、神奈川県民ホール・産業貿易センター、(2013.10)
- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi: Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 Tohoku Earthquake, 日本地震学会2013年度秋季大会、B31-03、神奈川県民ホール、(2013.10)
- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi: Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility

Curves of Buildings during the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, 日本地震工学会年次大会-2013、No. 114、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター、(2013.11)

安江健一

- ・花室孝広、高取亮一、安江健一、柴田健二、梅田浩司：化学的特徴による花崗岩体の識別手法の検討—中部地方の領家花崗岩と山陽帯花崗岩を例として—、日本地球惑星科学連合大会予稿集、SCG61-P07、(2013.5)
- ・花室孝広、安江健一、柴田健二、梅田浩司、高取 亮一：後背地推定のための花崗岩体の識別方法の検討 —中部地方の領家花崗岩と山陽帯花崗岩を例として—、日本鉱物科学会2013年年会講演要旨集、R7-05、(2013.9)
- ・石丸恒存、島田耕史、丹羽正和、安江健一、立石 良、池田真輝典、梅田浩司：高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破碎帯等の追加地質調査の概要について、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R24-O-8、(2013.9)
- ・國分（齋藤）陽子、安江健一、丹羽正和、松原章浩、梅田浩司、石丸恒存、島田耕史、立石 良：原子力機構東濃地科学センター JAEA-AMS-TONOによる放射性炭素年代測定とその断層調査への適用、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R24-P-2、(2013.9)
- ・丹羽正和、島田耕史、中村 克、安江健一、石丸恒存、梅田浩司：花崗岩中に発達する断層ガウジと粘土脈、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R24-P-3、(2013.9)
- ・末岡 茂、安江健一、丹羽正和、花室孝広、島田耕史、石丸恒存、梅田浩司、檀原 徹、岩野英樹、郷津知太郎：複数の熱年代学的手法に基づく江若花崗岩体の冷却史とその地質学的意義、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R1-P-5、(2013.9)
- ・梅田浩司、安江健一、丹羽正和、石丸恒存、島田耕史：山陰帯東部、江若花崗岩体とドレライト岩脈のK-Ar年代、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R24-P-1、(2013.9)
- ・安江健一、島田耕史、佐々木亮道、田中遊雲、丹羽正和、石丸恒存、梅田浩司、立石 良、小坂英輝：敦賀半島北部に分布する河成段丘の編年、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R24-P-4、(2013.9)
- ・新里忠史、阿部寛信、渡辺貴善、安江健一、佐藤治夫：東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い放出された放射性セシウムの山地森林における移動挙動、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R19-O-11、(2013.9)
- ・阿部寛信、新里忠史、渡辺貴善、竹内竜史、安江健一：放射性物質の移動挙動評価に係る森林における長期モニタリング、日本地質学会第120年学術大会講演要旨集、R19-O-11、(2013.9)
- ・Niwa, M., Shimada, K., Aoki, K., Seshimo, K., Tanaka, Y., Okubo, N., Kondo, K., Yasue, K., Ishimaru, T., Umeda, K.: Difference of microscopic texture between fault gouges and hydrothermal clay veins, Geological Society of America 125th annual meeting, T210.370-3, (2013.10)

呉浩

- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura: Relationship between damage ratios and ground motion characteristics during 2011 Tohoku Earthquake, 日本地球惑星科学連合大会, SSS33-23, 千葉幕張メッセ国際会議場 (2013.5)
- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi: Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 Tohoku Earthquake, 日本地震学会2013年度秋季大会, B31-03, 神奈川県民ホール (2013.10)
- ・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi: Characteristics of Strong Ground Motions and Fragility Curves of Buildings during the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, 日本地震工学会年次大会, No. 114, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター (2013.11)

■ 著書

入倉孝次郎

- ・ 東日本大震災合同調査報告—機械編、第2章分担執筆、(2013.8)

曾我部博之

- ・ 日本建築学会編（共著）：『建築構造設計における冗長性とおロバスト性』、丸善株式会社、(2013.6)

小橋勉

- ・ 小橋勉：資源依存パースペクティブの理論的展開とその評価、組織学会編『組織論レビューⅡ』、白桃書房、pp. 141-172、(2013.5)

鳥居一平

- ・ Ippei Torii, Kaoruko Ohtani, Nahoko Shirahama, Takahito Niwa, Naohiro Ishii: Development and Study of AAC Application of communication for Autistic Children, 28th Annual International Technology and Persons with Disabilities Conference, (2013.2)

廣内大助

- ・ 全世界の河川事典編集委員会編：『全世界の河川事典』、丸善1040p、pp. 286-287、(2013.7)

阿部亮吾

- ・ 阿部亮吾：東南アジア系移民女性とホスピタリティ、青木義英・神田孝治・吉田道代編著『ホスピタリティ入門』、新曜社、pp. 50-57、(2013.4)
- ・ 阿部亮吾：フィリピン人の定住化と多文化共生—名古屋市中区の事例から—、吉原和男ほか編著『人の移動事典—日本からアジアへ・アジアから日本へ—』、丸善出版、pp. 240-241、(2013.11)

倉橋奨

- ・ 倉橋奨：【コラム】愛知県の災害、愛知県立大学歴史文化の会編『大学的愛知ガイド—こだわりの歩き方』、昭和堂、pp. 270-272、(2014.3)